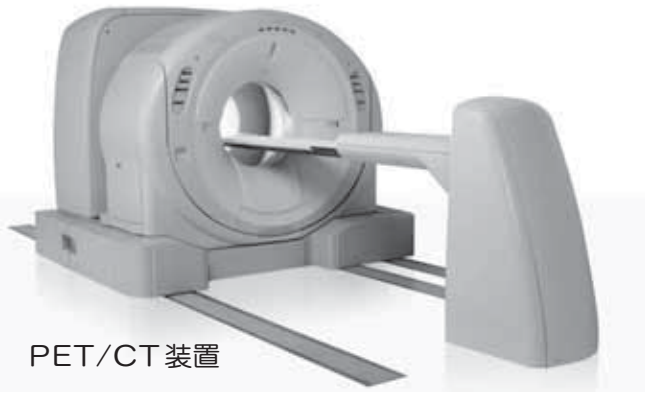


がん発見・治療に画期的な診断装置 PET/CT

鳥取市立病院へ来春設置

ペット・シーテイナー



PET/CT 装置

悪性新生物、いわゆる“がん”は、昭和56年以来、日本人の死因の第1位です。全国での死因別死亡率（人口10万人対）は平成15年度では245.3人。同年度の鳥取県は、303.8人、鳥取市は260.7人といずれも全国平均を上回っています。

このような実態を踏まえて、国は「がん医療対策」を緊急課題として捉えていますが、本市としてもその対策は急務であると考え、最新鋭診断機器 PET/CT 装置を市立病院に設置することを決定し、整備を進めています。

今後の「がん診療」に大きな効果となることを期待しています。

なお、この PET/CT 装置設置事業資金に充当するため、市民のみなさんの資金を活用させていただきたく、公募債を10月から募集します。多くの方のご理解をお願いいたします。

問い合わせ先

鳥取市立病院（的場一丁目）☎（0857）37-1522
<http://hospital.tottori.tottori.jp/>

PET/CTとは

PETとは、Positron Emission Tomography（ポジトロン・エミッション・トモグラフィ）…陽電子放射断層撮影という意味で、がんの検査方法の一つです。検査用の薬を注射することでがん細胞に印をつけ、その存在や大きさを調べます。欧米では、「がんが疑われたらまずはPETを」という言葉があるほどPET検査が定着しています。日本でも、その検査の質の高さから、近年急速に普及しつつあります。PET/CT装置とは、このPETと、従来からある、臓器や組織の正確な形や場所を調べることができるCTが一体となった、最新のがん撮影装置です。

用途・目的

現在、がんのPET検査は、大きく

有効性

次の二つの目的で利用されています。
①がんの疑いのある人やがんと診断された人が受ける精密検査として
②任意で受けるがん検診として
従来の検査に比べ、より正確な診断とその後の適切な治療に役立ちます。

がん細胞は、最初はゆっくり成長しますが、大きさが2センチを越える頃になると、驚異的な早さで増殖を始め、治療が難しくなります。

従来のがん検診では、がん細胞が数センチにならないと発見できませんでしたが、増殖を始める前の、小さながんを発見することができます。

PET/CT検査は、がんの早期発見のみでなく、良悪性の診断・進行度の判定、さらに転移・再発の有無の診断などにきわめて有効です。

PETによるがんの発見率は、従来の方法と比べ15〜20倍、一回の検査にかかる時間は約2時間で、全身の検査が可能です。

ただし、検査に使用する薬の性質上、検出が難しい部位がありますが、これらは、他の検査を併用することで検出率を高めることができます。

検査費用

保険診療でのPET/CT検査